

令和5年度 森林環境学習推進事業

「生き生きオータムキャンプ」 事業報告

- 1 趣 旨 森林等の豊かさを体感できる自然体験活動を通じて、児童生徒の森林環境への興味・関心を高め、豊かな情操を育むとともに異年齢集団による共同活動等により自主・自立の心や生きる力を育む。

※SDGsの17の持続可能な開発目標のうち、関連する個別目標



4.質の高い教育をみんなに



5.ジェンダー平等を実現しよう



15.陸の豊かさを守ろう



17.パートナーシップで目標を達成しよう

- 2 主 催 大分県教育委員会

- 3 期 日 令和5年 10月28日（土）～29日（日） 1泊2日

- 4 会場 大分県立香々地青少年の家

〒872-1202 豊後高田市香々地5151番地

TEL 0978-54-2096 FAX 0978-54-2152

- 5 参加者 県内の小学4年生から中学1年生までの児童生徒28名
(小4：9名 小5：5名、小6：13名、中1：1名)

- 6 活動プログラム

	6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00
10月28日								受付 出合いの集い	テント 設営	野外炊飯① ・竹で御飯炊き ・ちゃんこ鍋づくり	振り返り	入浴	自由 時間	就寝 テント(4～5人用) で就寝				
10月29日	起床	野外炊飯② ・ホットドッグづくり	森林環境学習 プログラム 森の遊び場づくり (ロープワークなど)	テント 片付け	昼食	振り返り 発表準備	別れの 集い 解散											

香々地青少年の家にある森での活動を中心とした体験プログラムを編成した。全プログラムを通して、班での活動を基本とし、仲間と共に協力する場面や自分自身の役割に責任を持って取り組む機会を設け、森の中で子どもが自主的・自発的に取り組むことができるようにした。

<1日目> 出会いと交流 ～仲間づくり～

☆活動の様子

- ・自己紹介後、アイスブレイクとして「じゃんけんぽん」を行った。参加者の緊張感をほぐし、互いの距離を近づけることができた。
- ・宿泊は班ごとにグループテントを設営。各班に男女用1つずつテントを配布し、互いが言葉を掛け合いながら協力する姿が見られた。
- ・野外炊飯で竹飯とちゃんこ鍋を作った。役割分担を行い、竹飯作りは竹を切るところからスタート。節の位置を確認し、のこぎりの使い方に苦戦しながら安全に協力して取組めた。
- ・休憩時間は、テントの中でカードゲームをしたり、談笑したりする様子が見られた。また、展望台に上がって満天の星を観察して過ごしていた。



☆指導のポイント

- ・参加者の不安を軽減できるように、じゃんけんに取り組んだ。参加者が気軽にできるじゃんけんで、集団に馴染めるようにした。学生サポーターと協力してアイスブレイキングなどの活動に取り組んだ。
- ・野外炊飯では、竹の切り方やちゃんこ鍋づくりの味付け等、子どもたちの自主性を大切にしながら、指導・支援を行った。
- ・全ての活動で係の活動が実働できるように役割分担した。責任を持って活動に取り組めるように場面を設定したり、所属感や自己肯定感を持てるように工夫した。
- ・1日目のふりかえりの時間に、仲間と協力できたことや翌日の目標を考えさせ、しおりに記入させた。



<2日目> 自然の中での活動 ～ロープを使って、森の遊び場づくり～

☆活動の様子

- ・朝食のホットドックづくりでは、パンに具材を詰めたり牛乳パックに火をつけたりするときに、仲間同士で言葉を交わしながら楽しく取組めた。
- ・森の遊び場づくりでは、子どもが「もやい結び」と「よろい結び」の事前学習に取り組んだ。
- ・子どもが木と木をロープでつなぎ経路づくりをした。木と木がロープでつながっていくと、子どもたちはロープを伝って進み、バランスをとりながら楽しんでいった。
- ・1本の長いロープを使って、ブランコを作る班もあった。
- ・テント片付けや撤収では、説明を聞き、短時間で取組めた。
- ・別れの集いの感想発表では、子ども全員が楽しかったこと、うれしかったことや成長したことなどを発表した。
- ・学生サポーターにサプライズで寄せ書きメッセージをプレゼントした。



☆指導のポイント

- ・学生サポーターに子どもの支援方法やロープの結び方などを事前研修をしたことで子どもに手本を見せることができた。
- ・活動に使った用具の片付けは、活動係を中心にさせ、指導や支援しすぎずに自力で取組ませるよう言葉かけをした。テントを片付けるときも、たたむ時のポイントを実演したり、片付け場所を明確に指示したりしたことで、手早く取組めた。
- ・感想発表の準備では、楽しかった活動やキャンプで成長したことなど、しおりで振り返らせたり、言葉のやりとりをさせたりしながら発表準備をさせたことで、自分の考えや思いをまとめて発表できた。



7 参加者の声

(子ども)

- ・ちゃんこ鍋づくりにがんばりました。調味料を少しずつ入れて味を調整したところが難しかったです。家に帰ったら、お母さんに材料を買ってもらい家で作ってみたいと思います。
- ・野外炊飯が楽しかった。竹を切って、その竹に米を入れて炊くことにびっくりしました。とても楽しかった。2日目のヒモを木に結んで森に遊び場を作ったのも楽しかった。実際に遊んだときに、ゆらゆらしてバランスをとるのが難しかったけど、落ちずに進めた。
- ・このキャンプで色々な人に話しかけて、成長したと思います。また冬のキャンプも行きたいです。

- ・テントをたてたり、ちゃんこ鍋や竹飯を作ったり、自分から行動できるようになりました。

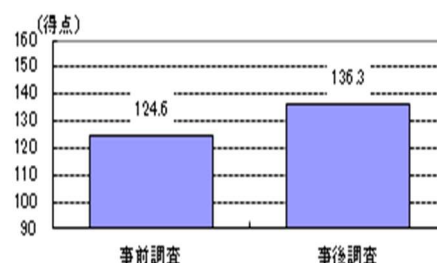
(学生サポーター)

- ・最初はサポーターとして参加することに緊張していたけど、子どもたちがたくさんキャンプネームで呼んでくれて、緊張がほぐれた。自然に囲まれながら、子どもたちと普段できない体験ができてよかった。
- ・2日間うまくいかないこともあったけど、みんながフレンドリーに話したり、遊んだりできて楽しく過ごすことができた。小さな子どもたちと触れ合うことがあまりなかったので、よい経験になった。
- ・テントを子どもたちだけで協力して片付ける姿を見て、成長を感じました。次のキャンプも参加したいです。
- ・自然の中で、子どもたちとも交流ができて幸せを感じることができました。

6 成果

- ・参加者アンケート（IKR 評定）では、心理的社会的能が 6.3 ポイント、徳育的能力が 3.1 ポイント、身体的能力が 2.3 ポイント、生きる力は 11.7 ポイント向上した。
- ・グループ内で役割を明確にして、仲間と共に協力したり、自分の力を発揮したりする場が増えた。仲間と活動する中で、協調性や思いやりの心が育まれ、生きる力の向上につながったと考えられる。
- ・1つの活動に余裕を持った時間設定をしたことで、子どもたちにじっくりと活動に取り組める時間を保障し充実感や達成感を十分に感じさせることができた。
- ・自由時間を確保したことで、仲間とアスレチックの遊具で遊び、会話をしている様子が見られた。心と体が解放されて自由時間の有意義さに気づかされた。
- ・学生サポーターと事前にミーティングを行い、事業実施の心構えやロープワーク等の事前研修をしたことで、学生の不安を解消し前向きに活動に取り組めた。
- ・近隣市町村の小学校にチラシを配布し、子どもたちがプログラム内容に興味や関心を持ち、参加意欲の高揚につながったことで50名以上の応募があった。

生きる力の変容



7 課題

- ・野外炊飯では調理器具や火の取扱いなど危険がないように、リスク管理を徹底する。
- ・県内の児童や生徒に多くの自然体験活動が提供できるように、事業の目的、内容、魅力等を学校等に広く周知・広報活動をして、新規参加者の開拓が必要である。